

皆様へ

ご無沙汰していますが、お変わりなくお過ごしでしょうか？夏に美山だよりを出すつもりが間にあわず、あっという間に秋になってしまいました。

うちのお庭は樹木がかなり成長し、今年は南側も日陰気味になってきました。それでも、春～秋には季節の草花が咲き、切り花にして室内で楽しみました。(写真1) うちのお庭のコンセプトは食べられるお庭なのですが、野菜・果樹以外の樹木や花も植えて、楽しめるお庭、心豊かになれるお庭でもあって欲しいです。私が植えた花に、カラスアゲハやアカタテハが飛んで来るとうれしくなります。アサギマダラという美しいチョウが訪れるフジバカマも咲いています。まだこのチョウをうちの庭では見ていないのですが、近所のフジバカマの上を舞っているのを見たことがあるので、我が家でもそのうちにきっと出会えることでしょう。



写真 1

うちのお庭はとりわけ鳥たちに大人気です。10月にはそっかしいスズメが、二階の屋根から煙突の中に入り、一階の薪ストーブの中まで羽根をバタバタさせながら降りてきました。よくあることで今秋はこれで2回目です。こんな時は部屋の窓を一カ所だけ開放し、それ以外の窓



写真 2

を全て締めてカーテンでおおって薄暗くしてから、ストーブの扉を開けてやります。するとストーブの中で「ここはどこ？」という顔をしていたスズメが出て来て、部屋の中を少し飛び回ってから、開放した窓を見つけて外に戻っていきます。こんな時、外では複数のスズメの鳴声がいっそうにぎやかになり、このスズメの生還を喜んでいるようです。春にエゴノキに来ていたヤマガラ(写真2)もまた毎日のように来て、エゴの実をうれしそうに食べています。カワラヒワやシジュウカラもよく来ます。もうすぐ私が大好きな冬鳥、ジョウビタキも来るでしょう。私たち以外にも多くの生き物たちがお庭を気に入って活用してくれるのをうれしく思っています。

話は変わりますが、先日の台風21号で美山町にも被害が発生しました。近くの道路の一部が陥没し通行止めになり、一時は陸の孤島のような状態でした。風雨で屋根が飛んだところもあったようですし、南丹市情報センターの光ケーブルも倒木で損傷を受け、一時的にメール、インターネットが使用不能でした。加えて10/22の未明～10/23の夕方は停電状態で、固定電話も使えませんでした。停電中は雨が降っていましたが、23日の午後ようやく薄日が差したので、太陽光発電を自立運転モードにして、まずは冷蔵庫の電気を確保し、冷凍庫にもコンセントをつなぎました。間もなく日没となり、おひさまパワーが得られなくなった頃、ようやく復電しました。

さて私の美山暮らしも15年以上になりました。田舎の生活に馴染むにつれ、かつて当たり前のようにどっぷりと浸っていた都会生活への違和感がいっそう強くなってきました。ごくたまに大阪駅周辺や梅田に出かけた時に、特に違和感を感じます。華やかな店がたくさんあり、食べ物があふれ、お金さえ出せば世界中の食べ物が購入でき、レストランやカフェでもいただけます。でも災害時、例えば台風や地震で大きな被害がでたらどうでしょう？豊富な食べ物は巨大な冷凍、冷蔵設備

で支えられていて、停電になればひとたまりもありません。加えて道路が寸断され交通網が機能しなくなれば、食べ物の補給も難しくなります。水はどうでしょうか？ 水道が断水すれば、初めはペットボトルでしのげてもすぐに売り切れてなくなり、水洗トイレも使えなくなります。こんな時に役立つのが雨水ですが、私は雨水タンクを大阪駅、梅田周辺で見た事がありません。とすれば華やかで物があふれる「豊かな」都会は、まるで「砂の上のお城」のようです。命を育む土もコンクリートやアスファルトのような人工物で覆われて、食べられる野草や野菜も育っていないのが、いっそうの違和感と不安感をもたらします。

というわけで、私はたまに梅田界隈に用事でかけても、何だか落ちつかず、早々に帰路につきます。そして美山に戻るとほっとします。ここには命を育む土があります。水道が断水しても徒歩圏内に飲める山の水があります。百メートル先には川があり水が汲めるし、庭には雨水タンクもあります。停電で冷蔵庫／冷凍庫の中身がもし駄目になっても、畑には野菜が育っていて、食べられる山野草も多く、近所のニワトリの卵も入手できます。太陽光パネルの自立運転ができることも心強いです。またプロパンガスを使い果たしても、山でタキギを拾えるし、薪や剪定枝で調理することもできます。以上により、大きな災害が発生してライフラインが機能しなくなれば、都会の真ん中での生活の方が、田舎よりもかなり深刻な影響を受けそうです。



写真 3

都会だからこそ、いっそう雨水の貯蔵が奨励されなければならないし、太陽光発電ももっと増えて良いはず。加えて都市部に食べ物が生産できる農的空間を創出すれば、レジリエンス（減災力、マイナスの影響からの回復力）がいっそう高まります。都市の農的空間は災害への備えだけでなく、自然と切り離されていた都会生活に自然とのつながりを取り戻し、自然の恵を感じながら生活することを意味します。都会の塩漬けの土地が菜園になり、野菜や果樹が栽培され、もはや活用不可能な古い空き家が解体された跡地に花や樹木が植えられ、例えば我が家のような有機菜園（写真3）や、オーガニック・フラワーガーデン（写真4）のような空間が出現すれば、街中でも居心地良く安心できるのではないのでしょうか？



写真 4

2017年11月2日 アースガーデン 植月千砂

アースガーデンおひさま発電所発電データ (5kW 規模)											
											累積発電量
											44,924kWh (2017/9)
	2016年 11月	12月	2017年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
発電量 (kWh)	262	263	178	297	546	633	664	647	528	625	392